

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
170

東北森林管理局

特集

平成30年度東北森林管理局 主要取組事項 [企画調整課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

ニホンジカ被害対策 [盛岡森林管理署]

■我が署の名所

じゅうにしん
十三神自然観察教育林 [三陸北部森林管理署管内 岩手県宮古市]



飯豊梅花皮荘(いいでかいらぎそう)の桜と飯豊連峰
[提供：東北森林管理局登山同好会]

特集

平成30年度東北森林管理局

主要取組事項

企画調整課

東北森林管理局は、国民のみならずの森林である国有林の管理経営を通じて、「林業の成長産業化の実現に向けた取組の推進」「多様で健全な森林づくりの推進」「地域の安全・安心を確保する治山事業の推進」「二ホンジカによる森林被害の防止対策の強化」「森林景観を活かした観光資源の創出」「東日本大震災からの復興への貢献」といった役割を確実に果たされるよう、関係者の皆様との連携を図りつつ、全力を挙げて取り組んで参ります。具体的な取組事項は次のとおりです。

1 林業の成長産業化の実現に向けた取組の推進

向けた取組の推進

(1) 林業の低コスト化に向けた取組強化

林業の成長産業化の実現に向け、林業の低コスト化に率先的に取り組むとともに、得られた技術の民有林への普及を図ります。

〈H30年度の重点取組〉

○コンテナ苗を活用した一貫作業システムなど、低コスト化に向けた技術の実証に率先して取り組むとともに、低密度植栽など新たな低コスト造林技術の開発・確立に取り組めます。

・安全かつ効率的な伐採が可能な列状間伐に積極的に取り組めます。

・伐採とその後の植栽を連続的に実施する一貫作業システムに積極的に取り組めます。

さらに、植栽可能時期が長く、簡単に植栽が可能なコンテナ苗を積極的に活用し、さらなる低コスト化を図ります。

・生産性向上に向け、全署で林業事業体と連携して工程管理表を作成するとともに、それを分析し、作業方法の改善などに取り組めます。

・現地の状況に応じて下刈を見合わせるなど、低コスト化を図ります。

・効率的な森林施業のため、路網整備を推進します。

路網の維持管理コストの縮減に向け、鉄鋼スラッグを活用します。

○造林の低コスト化に向けて、新たな技術開発に取り組めます。

・特定母樹挿し木コンテナ苗試験植栽
成長や幹の通直性などが優れている特定母樹のクローン（挿し木）

によるコンテナ苗の植栽試験を仙台森林管理署管内で実施し、下刈回数の低減効果を検証します。

○低コスト化の技術の普及・定着に取り組めます。

一貫作業システム等の低コスト化技術の民



コンテナ苗植栽体験の様子（三八上北署）

有林への普及・定着に向け、各署等で国有林の現場を活用した現地検討会を積極的に開催します。

○森林共同施業団地の取組を通じて民有林における低コスト化に協力します。

民有林と国有林が連携して効率的な森林整備等を行う森林共同施業団地の設定を推進し、路網、

土場などの共同利用や施業集約化による民有林での低コスト化に協力して

いきます。

また、協議会の開催などにより民有林との連携を強化します。

(2) 木材等の安定供給

川上から川下まで一体となった林業の成長産業化の実現に向け、国有林材の安定供給システム販売等により、木材の安定供給に向けた取組を推進します。

また、民有林から供給の期待しにくい木材等の供給にも取り組めます。

〈H30年度の重点取組〉

○木材の安定供給に取り組めます。

適切な森林整備等の結果得られた木材については、国有林材の安定供給システム販売等を通じて計画的、安定的に供給します。



現地検討会の様子（岩手県岩手町）

また、複数年分（2〜3年）の立木販売箇所を集中して1契約とする立木の安定供給システム販売も推進します。

○民有林から安定供給が期待しにくい林産物を供給します。

青森ヒバ、高齢級秋田杉、広葉樹などの地域の木材産業から需要があるものの、民有林から安定供給が期待しにくい木材について、計画的、安定的な供給に取り組みます。

また、地域の木の文化を支えるため、漆などの森



高齢級秋田杉（あきたの極上品）



広葉樹（ブナ）



青森ヒバ

林資源を活用した伝統工芸品に必要な原料供給に協力します。

・採材現地検討会の開催

採材現地検討会を積極的に開催し、林業事業者や製材工場と情報・意見交換することにより、需要動向に即した木材生産に取り組みます。

また、スギやカラマツだけでなく、広葉樹の有効利用に向け、広葉樹の採材現地検討会も積極的に開催します。

・漆の供給への協力

浄法寺塗（岩手県二戸市）に必要な漆の供給に協力するため、漆生産者等とウルシの分収造林の設定を推進します。

森林の公益的機能を発揮させつつ、森林資源の循環

2 多様で健全な森林づくりの推進

環境利用による林業の成長産業化の実現に取り組むため、天然力も活用しつつ多様で健全な森林づくりを推進します。

〈H30年度の重点取組〉

○天然力の活用等による多様で健全な森林づくりを推進します。

・南三陸イヌワシ生息環境復元プロジェクト

（宮城県南三陸町）

南三陸町では、環境に配慮した林業経営の推進と、豊かな自然環境の象徴でもあるイヌワシの生息環境の復元に民有林と国有林が連携して取り組んでいます。

国有林では、かつてイヌワシが営巣していた場所からの距離等も考慮しながら、スギ等の人工林を順次伐採し、イヌワシの狩場を創出するとともに、森林資源の有効活用に取り組みます。

・青森ヒバ林復元プロジェクト

（青森県津軽・下北半島）

かつてヒバ林が成立していた青森県津軽・下北半島において、主に天然力を活用して人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を地域の関係者と連携して推進します。

・マツ林の樹種転換

（青森県深浦町、岩手県岩手町、岩手県花巻市）
松くい虫被害の先端地域等において、主伐期に達しているマツ林を広葉樹の天然更新などにより樹種転換し、松くい虫被害に強い多様で健全な森林を整備するとともに、伐採したマツの有効利用に取り組みます。



樹種転換箇所でのマツの伐採・活用（岩手県岩手町）

3 地域の安全・安心を確保する

治山事業の推進

治山施設の整備や保安林の整備による山地災害の未然防止に努めるとともに、被災した荒廃山地を復旧することで森林を再生し、地域の安全・安心を確保します。

〈H30年度の重点取組〉

○地域の安全・安心を確保するため治山事業を推進します。

集中豪雨等に対する山地防災力を高めるため、荒廃山地の重点的な復旧に取り組みとともに、予防対策により事前防災・減災対策を推進します。

・流木災害の防止に向けた治山事業を推進

九州北部豪雨等による流木災害の発生を踏まえ、緊急点検により選定した早急に流木対策が必要な森

林等において、間伐等による根系等の発達促進、流木捕捉式治山ダムとの設置、流木化する可能性の高い流路部の立木の伐採などの対策を実施します。

- ・流木捕捉式治山ダム
- ・土砂や流木を捕捉し、下流への流出を防ぐ機能を持つ流木捕捉式治山ダムの設置を進めます。

- また、浚渫（堆積した土砂や流木の撤去）を行い既設の流木捕捉式治山ダムの機能維持・強化を図ります。



流木捕捉式治山ダム

○山地災害が発生した場合、民有林と連携して迅速に対応します。

- ・山地災害の迅速な被害状況把握のため、被害状況に応じて、ヘリコプターによる民国合同緊急調査を行います。

また、機動的かつ効率的に調査を行うため、新たにドローンを活用します。

- ・民有林における被害調査への協力、復旧に向けたアドバイスを行うため、治山・林道分野の技術を有する職員を現地に派遣します。

4 ニホンジカによる森林被害の防止対策の強化

ニホンジカによる森林被害を防止するため、地域と連携して捕獲、被害防止に取り組むとともに、そのために必要な分布情報の受発信を行います。

特に、貴重な森林における被害防止対策を強化します。

○捕獲を強化します。

ニホンジカの生息密度が高い地域において、囲いかな等による捕獲を実施します。

また、冬期間の林道除雪による狩猟者支援など、地域と連携した捕獲に取り組みます。

○造林地の被害防止対策を推進します。

造林木への被害防止のため、地域や被害状況に応じた効果的かつ効果的な対策を推進します。

○貴重な森林における被害防止対策を実施します。

- ・白山山地での取組
- ・センサーカメラによる、生息状況のモニタリングや囲いかなによる捕獲を実施します。
- ・早池峰山での取組

近年、食害等による

森林被害が多発していることから、センサーカメラの設置やニホンジカへのGPS装着などにより、モニタリングを強化します。

また、囲いかなによる捕獲を新たに開始します。

○効果的な被害防止対策のため、分布情報等の収集と情報発信を行います。

職員に加え、事業者や入林者にも働きかけ、チェックシートにより分布情報等を収集し、関係機関と連携した効果的な被害防止対策に活用します。

5 森林景観を活かした観光資源の創出

国有林を山村地域における観光資源として活用するため、地域と連携して施設整備やPR活動に取り



撮影されたニホンジカ



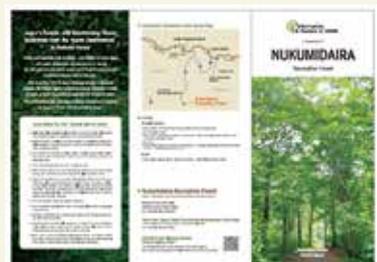
設置しているセンサーカメラ

組みます。

〈H30年度の重点取組〉

○レクリエーションの森の施設等のレベルアップを図ります。

重点的に整備するモデル箇所（「日本美しの森 お薦め国有林」）に選定した11箇所のレクリエーションの森において、多言語による情報発信、環境整備等を行い、国有林の観光資源としての活用を推進します。



英語版パンフレット（温身平風致探勝林）

6 東日本大震災からの復興への貢献

東日本大震災により被災した海岸防災林の平成32年度末までの植栽完了に向けて全力で取り組みます。

〈H30年度の重点取組〉

○海岸防災林を着実に復旧します。

津波に強い海岸防災林を造成するため、地下水位から2〜3mの地盤高を確保する生育基盤盛土を造成後、防風柵を設置し、民間団体の協力を得つつ海岸防災林を復旧します。

平成30年度に生育基盤造成工事を完了させ、平成32年度末までの植栽完了に向けて全力で取り組みます。

・生物多様性保全対策

海岸防災林の防災機能を確保しつつ生物多様性の保全を図るため、湿地環境や希少な野生生物の生息・生育環境の保全に努めます。

美しい森林づくり

ニホンジカ被害対策

盛岡森林管理署

盛岡森林管理署管内でも最近ニホンジカによる林業被害が出てきています。その対策として、現在取り組んでいる「防鹿柵」について紹介します。

1. 防鹿柵設置のきっかけ

盛岡森林管理署管内虫壁国有林内で平成28年度に植栽したスギ苗木が3割程度被害にあいました。この対策として、植栽木の保護効果が高い防鹿柵の設置を検討することになりました。

虫壁国有林内には、平成28年度にニホンジカ被害対策として「さいネット柵」を施工した箇所があります。「さいネット柵」とは防除箇所の周辺をプラスチックの杭とポリエチレン製の網で囲む工法です。この網は強度が弱くニホンジカに噛みさられた破損箇所が多く見られます。このことにより柵全体の防除機能が低下するため、定期的な点検が必要になります。平成29年度は月に1回程度点検を行っていたので



金網柵近景



PE ネット柵 (スカート付) 近景

すが、①周囲約1.1kmを見回るのに3人で4時間かかり、1回の見回りに多く時間を割くこと②シカ等に網を食い破られるなど毎回修繕箇所が多く発生すること③設置後の点検を定期的に行わなければ防除効果が維持されないことなどから点検時の負担をより軽く出来る工法を探るべく平成29年の冬に「金属柵」「PEネット柵」の2種類の防鹿柵を設置することにしました。

2. 金網柵

支柱・網ともに金属を使用する金網柵は、融雪時・暴風時以外の点検回数の減少、修繕箇所の減少が見込めます。ただし、すべて金属を使用するのでコストがかかり、また、積雪の多い東北地方での利用例が少なく、融雪時に修繕がどれだけ必要か今後の検証が必要です。さらに、平地での使用実績はあるものの、急傾斜地を含む山地での使用は岩手県では今回が初めてにあたる

3. PE ネット柵

ので、防除機能を損なわない設置方法の確立および経過観察が必要です。

亜鉛メッキを施した支柱と簡単にシカが噛みきれないように金属繊維ダイニーマを混ぜた網を使用するPEネット柵は、金網柵と同様に点検及び修繕箇所の減少が見込め、さらに金網柵よりもコストを抑えることが出来ます。今回はPEネット柵本体に加え、ネット中央から斜めに張るスカートネットを取り付けました。これにより、ニホンジカは足下に網が絡まることを嫌がって近づけず、本体ネット自体が噛みさられる可能性が低くなります。しかし、こちらも東北地方での利用例が少なく、シカに噛み切られにくいとはいえず、どの程度なのか経過観察が必要です。



PE ネット柵全景

4. センサーカメラ設置

「金網柵」や「PEネット柵」の設置した付近に「センサーカメラ」を設置し、ニホンジカの個体数や行動を把握できるようにしました。雄鹿や雌鹿、



センサーカメラ撮影

子鹿の群れの状況を確認したり、冬へのさ場になっていくかを確認したり、季節によっての行動状況を把握するための設置です。

今後は低コストで簡単に、確実な対策が出来ないか試行錯誤を繰り返しながら、ニホンジカ対策を進めていく第一歩の試みです。雪害等についての検証も進めるなど、防鹿柵に関する効率的な設置方法の確立および維持管理に取り組みこととしています。

5. 今後の展開

今後は「さいネット柵」・「金網柵」・「PEネット柵」の3種類の防鹿柵の点検時における修繕箇所および内容の記録を通して、①使用に適した箇所の選定方法（傾斜や資材運搬の容易な搬出の有無等）②柵を設置するために必要な事前準備（設置箇所周辺の倒木の危険のある木の伐採や柵を設置する路線の整備等）など防鹿柵に関する効率的な設置方法の確立および維持管理に取り組みこととしています。

トドマツノキクイムシの大発生

森林総合研究所東北支所 升屋 勇人

1. はじめに

キクイムシといえばカシノナガキクイムシによるナラ類集団枯損がすぐに思い浮かびますが、最近では宮城、山形両県の蔵王で被害を引き起こしているトドマツノキクイムシの名前も耳にするようになってきました。このキクイムシは古くから日本に生息し、モミ属を加害するキクイムシの1種として知られていましたが、そのキクイムシがなぜ今、問題になっているのでしょうか。本稿ではトドマツノキクイムシの生態について紹介するとともに、大発生の要因について考えてみたいと思います。



図1. トドマツノキクイムシによるアオモリトドマツ枯損

2. トドマツノキクイムシの生態

トドマツノキクイムシはゾウムシ上科キクイムシ科ヨツメキクイムシ属の1種です(図2)。寒冷地や亜高山帯に分布し、気温が15℃以上になると飛翔します。モミ属の樹皮下に穿孔、内樹皮を加害します。健全木への穿孔が著しい場合には、激しい樹脂流出が認められます(図3左)。



図2. トドマツノキクイムシ(体長約3~4mm)

雌雄比は1:1で、雄が最初に穿入して交尾室を形成し、雌成虫を誘引します。そこで交尾したあと、左右2方向に孔道を掘り進み、母孔を形成して、母孔沿いに産卵します。孵化した幼虫は上下方向に内樹皮を摂食しながら幼虫孔を形成していき、幼虫孔先端に蛹室を形成します(図3右)。そこで蛹化、羽化し、脱出します。その間、キクイムシ体表に付着していた青変菌などの菌類が、キクイムシの穿入とともに樹体内に侵入し、樹皮下で繁殖するとともに、辺材部に広がり、通水を阻害します。キクイムシは必ず様々な糸状菌や酵母を随伴しており、時々強い病原力を有する菌が含まれていることもあります。しかし、たとえ弱い病

原菌でも多数穿孔することで樹体にダメージを与えることから、キクイムシの大発生は樹木の集団枯損につながることがあります。トドマツノキクイムシの随伴菌の種類については調べられていますが、病原力については十分には検討されていません。



図3. キクイムシによる加害(左:樹脂流出、右:樹皮下の孔道)

3. 大発生の要因

キクイムシが大発生する要因として、そのキクイムシが外来種かどうか、気候の影響がどれくらいあるか、餌資源がどれくらいあるかが重要と考えられています。外来性のキクイムシは海外で問題になっており、例えばシベリアではトドマツノキクイムシは侵入害虫として問題になっています。また、北米では1年に一度しか発生しなかった種類が最近の気候変動で2度発生するようになってきました。

ヤツバキクイムシやカラムツヤツバキクイムシは、切り捨て間伐や、台風などによる倒木といった、キクイムシの穿孔適木が増えることで、翌々年から大発生が始まるといわれています。山形蔵王ではトウヒツツリヒメハマキによる食葉被害が深刻だった年以降に、トドマツノキクイムシの被害が始まりました。宮城蔵王における被害発生もその影響があるかもしれません。その一方で、昨今の気温上昇がキクイムシの挙動に大きな影響を与えている可能性も考えられます。特に近年、宮城蔵王では気温15℃を超える日が以前よりも増えており、こうした変化も被害発生に影響していると思われます。

4. おわりに

東北地方ではトドマツノキクイムシは八甲田山、早池峰山、八幡平でも比較的高い密度で分布し、よく目にするキクイムシです。健全木でも激しい樹脂流出等の症状が見られる場合は、キクイムシによる被害の発生、拡大の兆しかもしれません。天然林では伐倒駆除や薬剤散布が難しく、被害が発生しても具体的な対策はほとんどないのが現状です。しかし、大発生した後は手の施しようがないため、例えば穿孔対象となる倒木や立枯木を除去するなど、キクイムシの密度の上昇を防ぐための方策をとることが重要と思われます。



「わたしの美しい森」フォトコンテストの 東北森林管理局長賞のご紹介



「日本美しい森 お薦め国有林」をはじめとする日本国内各地で撮影された写真を通じて、森林の景観の美しさ、生命のすばらしさ、体験による感動など、森林の様々な魅力を伝えることをテーマに、フォトコンテストが平成 29 年度に実施されました。

全国から 1,174 作品の応募があり、東北局管内では 104 作品の中から東北森林管理局長賞 1 作品を選定し、表彰を行いました。

詳しくは <http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/180329.html> でご覧いただけます。



フォトコンテスト局長賞



左から受賞者の白山様、小林署長

作品名：美しい森 秋のカラーコレクション

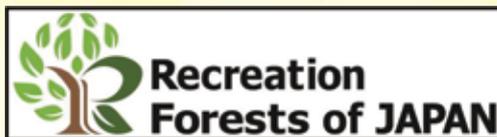
撮影場所：青森県十和田市奥入瀬溪流

撮影者：白山 健悦 様

表彰等：平成 30 年 4 月 13 日

三八上北森林管理署

(小林 辰男署長から木製賞状と副賞を伝達表彰)



林野庁が国有林の中に制定した「レクリエーション森」をブランド化するため統一ロゴマークを設定しました。

また、「レクリエーションの森」を有する各自治体においても本ロゴマークを観光誘致や地域活性化のシンボルとしてご利用いただけます。



ハムシ類の多様性



藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

ハムシと聞くとハエやアブなどの『羽虫』を連想しがちですが、今回ご紹介するのは葉を食べる『葉虫』、英語でもLeaf beetleと呼ばれるコウチュウ目ハムシ科の虫達です。日本には600種以上が生息していて、体長わずか数ミリの種がほとんどですが、良く見ると色や形の多様性に目を奪われます。

ハムシ界きっての美麗種で、これ何？とよく名前を聞かれるのがアカガネサルハムシ①です。林縁のヤマブドウの葉を探すと見つかりますが、ブドウ農家にとっては悩ましい害虫です。イタドリの葉がボロボロに食べられていたら、きっとイタドリハムシ②の仕業でしょう。これは見たことある！という方も多いかと思いますが、この派手な配色は鳥類が嫌うテントウムシに擬態していると言われています。

食草のアザミ類の葉にペタリとくっつき同化しているのは、アオカメノコハムシ③です。頭や足は

下に隠れていてまさに“亀の子”ですが、歩く時は触角が前(③では右側)に出ます。イチモンジカメノコハムシ④は半透明の透き通った翅が魅力的で、ムラサキシキブの葉を食べます。葉の裏にいることが多いので、下からのぞいて探してみましょう。

息をのむほど鮮やかな深紅のドロノキハムシ⑤、水玉模様が彫刻された銀細工の様なハッカハムシ⑥は、ともに体長10ミリ前後でハムシ類の中では大型種です。その名の通りドロノキハムシはドロノキやヤナギ類を、ハッカハムシはハッカなどソ科の葉を食べます。

萌黄色から濃緑色へと葉が生長していく5~6月は、ハムシ類が特に多く見られるシーズンです。小さな体でなかなか目に付きにくいのですが、野外を散策していると知らぬ間に衣服に止まっていたりするものです。ルーペ越しに彼らをじっくり観察すると・・・ハマりますよ・・・



①アカガネサルハムシ



③アオカメノコハムシ



⑤ドロノキハムシ



②イタドリハムシ



④イチモンジカメノコハムシ



⑥ハッカハムシ



森林官からの手紙

鳥海地域名物「松皮餅」について

由利森林管理署 笹子森林事務所 森林官

藤原 哲生

私は現在、由利森林管理署笹子(じねご)森林事務所に勤務しています。秋田県由利本荘市鳥海町の東部に位置し西に鳥海山、南は山形県の県境に接していて冬になると積雪が2m〜3mあり除雪が大変ではありません



桑ノ木台湿原から望む初夏の鳥海山

が、冬以外の季節は気候も穏やかで大変のどかなところですよ。

そんな秋田県由利本荘市鳥海町地域にのみ古から伝わる「松皮餅」を紹介したいと思います。

松皮餅の由来は、天明の大飢饉の際に救荒食として用いた説と矢島藩主の生駒氏が改易前の四国で兵糧攻めの際に作り出したという説がある

ようです。

作り方は、アカマツの樹皮を数日間煮込みアクを取ります。次に樹皮の内側の繊維をはぎ取り、その繊維を細くなるまで棒で叩き、それを餅に混ぜ込み餡子を包んで完成と、かなり手間暇をかけたお菓子です。

見た目は、うすい小豆色で餅に混ぜたアカマツの樹皮の細い繊維がうっすらと見える大福餅です。味は甘さ控えめ、普通の大福餅とほぼ一緒で繊維が味や食感を損なうことはありません。松の木は縁起物であるため、お祝いでお供え物として、雛祭りでは白餅、蓬餅、松皮餅の三色の菱餅として作られるそうです。

私が知りうる限り、樹木の食材としての利用は、果実(柿、栗等)、



松皮餅

葉(桜餅、モミジの天ぷら等)、樹液(メイプルシロップ等)があり、漢方薬としてはキハダの樹皮がありました。食材としての使用は初耳でした。

林業に携わるものとして、樹皮を食材として活用していることがとても新鮮に思うとともに樹木の可能性は奥深いと感じました。

松皮餅は、鳥海地域の道の駅や産直等で三個入り一パック三百円で購入できます。もし、鳥海地域にお越しの際は、歴史と伝統と樹木の可能性を味わってみてはいかがでしょうか。



葉桜と筆者



早春の溪流



樹木の芽吹き



ハリギリの木漏れ日



紅葉と高滝

我が署の名所

じゅうにしん 十二神自然観察教育林

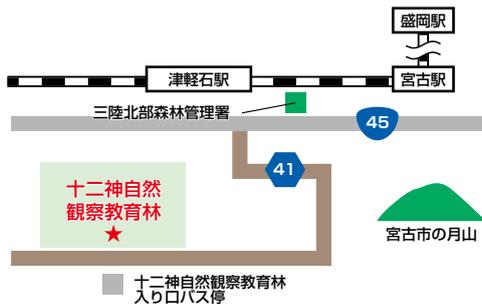
三陸北部森林管理署管内

岩手県宮古市

十二神自然観察教育林は、本州最東端の重茂半島の中心部に位置し、半島の最高峰十二神山(海拔731m)の東側に広がっています(面積83.16ha)。十二神山の名前の由来は諸説ありますが、その中の一つを紹介しますと、山の中央に薬師如来が、山頂の凹凸の一つひとつに薬師如来をお守りする十二の神々がいるとされていることから付けられたといわれています。

この森は、ブナを主体とする林齢150年生以上の天然広葉樹林で、直径1メートルを越すミズナラ・トチノキ・クリ・ハリギリの巨木が混在するほか、ケヤキ、カツラ、サワグルミ、ミズメなどが生育し樹種も豊富な森林です。また、コウモリ類、ニッコウムササビ、ホンシユウモモンガ等をはじめ、鳥類では、オオルリやセンダイムシクイ、冬季にはオオワシ、オジロワシの越冬地となっていて、数多くの動物が生息する三陸海岸域の中でも貴重な自然林で、森林環境教育や地域住民の自然観察の場として利用されています。また、十二神山の豊かな自然は、重茂半島周辺の素晴らしい漁場を育んでおり、夏には味の濃厚なウニが、冬には大ぶりのアワビがとれることで有名です。

宮古市の重茂半島は、積雪量が少なく、オールシーズン散策を楽しむことができます。春には樹木の目覚めを見ることができ、夏には巨木の木漏れ日が、秋には色づく木々が迎えてくれるでしょう。十二神自然観察教育林は誰でも気軽に貴重な森林と触れ合うことができ、リラククス効果も得られるとともに、十二の神々からパワーをいただけるかもしれません。さらに、豊かな自然が育む海の幸も同時に楽しめば、改めて森林の大切さを感じることができると思います。



三陸北部森林管理署

〒027-0022 岩手県宮古市磯鶏石崎4番6号
TEL0193-62-6448 FAX0193-63-4872

◎交通アクセス

津軽石駅から約13km 車で約40分

